

令和7年度 吉川市立栄小学校 学校評価

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

- | | | |
|---|-------------|---------------------|
| 4 | 高いレベルできている。 | (8割以上の達成状況である。) |
| 3 | 概ね基準に達している。 | (6割以上8割未満の達成状況である。) |
| 2 | 基準には達していない。 | (2割以上6割未満の達成状況である。) |
| 1 | ほとんどできていない。 | (2割未満の達成状況である。) |

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え	学校関係 者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	3.7	校長室通信を活用して、校内の方向性の収束を図った。学校教育目標の実現のため、各教職員がワクワク感のある授業を意識し実践していた。学習環境等も概ね整っていた。	3.7	学校長の学校運営に対する思いが教職員に浸透し、学校教育目標の実現に向け、様々な教育活動が実践されていたと捉えていただいた。
2	教職員はPDCAサイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	3.7	全体的にPDCAサイクルを意識していたが、個人差が否めないため、更なる改善が期待できる。行事等の運営に関して、前年度の反省をもう少し生かせる部分があったと感じる。	3.8	各教科の指導及び学級経営等において、PDCAサイクルに基づいた計画的な実践と組織的な振り返りを今後も継続して、教育活動の質を高めていきたい。
3	学校は事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.8	アレルギー対応等、概ね明確にマニュアル化しているが、避難訓練を実施して課題が浮かび上がってきたものもあった。次年度に向け、課題を踏まえ、危機管理マニュアルを見直していきたい。	3.6	マニュアルが形骸化しないように見直しを求める声があった。今年度の反省点を生かし、マニュアルをより実効性の高いものに改善していく。
4	学校は清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	3.5	職員室前の学校行事に関わる掲示物が充実した。学校全体で無言清掃・清掃の仕方について指導しており、児童の美化意識が向上してきた。清掃用具の不足箇所については、計画的に補充していく。	3.9	校舎の老朽化は否めないが、きれいに保とうとする意識を教職員や児童が持っているとのこと意見をいただいた。引き続き、美化意識の向上を図っていく。
5	学校は小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	3.4	中央中学校区夏季合同研修会に加え、6年生児童による中央中学校訪問や中央中学校区特別支援学級交流会、教職員による小小、小中の授業参観も複数回実施した。小中一貫教育が着実に進んでいる一方、実感が伴わないとの教職員の声の一部があった。	3.5	昨年度よりも持続可能な取組の成果が表れている一方、保護者への周知に関しては未だ課題がある。ホームページや学校だよりをより有効に活用したい。
6	教職員はPTA活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	3.6	働き方改革を踏まえ、PTA活動や地域の活動には、管理職が主として携わった。保護者や地域の思いを生かした活動となるよう協力体制を構築し、協議を重ねることができた。	3.7	本校ならではの立地条件・地域環境を生かした学習活動がなされているとの評価をいただいた。今後も地域の人材の発掘を積極的に行っていく。
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	4.0	ホームページを毎日更新し、学校の教育活動の一端を積極的に発信した。写真を効果的に取り入れ、臨場感の溢れる記事の掲載が図れた。また、ホームページやHome & Schoolを活用して、随時必要な情報を提供することもできた。	3.9	ホームページの閲覧数が大幅に増え、本校の教育活動に関心をもってくださいの方が多数存在することを実感できた。学校だよりとともに、内容をより充実させていく。
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	3.5	総合的な学習の時間・生活科を主軸とした学校課題研修も2年目となり、地域の人材や保護者を講師として招聘する学年が増えた。子供達の学びをより深めるため、学年で独自に講師を発掘する等、教職員の主体性が高まった。	3.6	「感謝集会」によって地域の人材と学校との関係性が深まっているとのこと意見をいただいた。今後も「感謝集会」を継続し、ありがたいの気持ちを示していきたい。
9	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組み、学習内容を理解しようとしている。	3.7	全体的に落ち着いて学校生活を送れている。学習のルールに関して学級や学年によって多少違いがある一方、学習規律が整っている学級が多く、児童が主体的に学ぶ様子があちこちで見られる。	3.9	どの学年・学級も落ち着いて主体的に学習しているとのこと意見を多くいただいた。今後も学校全体で学習規律の徹底を図り、学力の向上を目指す。
10	教職員は学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童生徒の実態に基づいた授業改善に努めている。	3.7	学力向上を目指し、県学調・全学調の結果分析を生かすとともに、振り返りを充実させることができた。授業における「匠の技」を共有し、授業力向上を図った。	3.9	教員が各々もっている教育技術をまとめた「匠の技」が素晴らしいと評価していただいた。今後も児童の実態把握に努め、授業改善を推進していく。

11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	3.6	探究的な学習や繰り返し学習でICTを積極的に活用している。有効な活用方法について、ミニ研修会やICT支援員から学ぶ機会をもった。	3.6	個別最適な学びの実現に向け、ICTの効果的な活用を一段と推進するとともに、社会のデジタル化に対応し、児童の情報活用能力を底上げしていく。
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	3.5	学習ルールについて学級や学年によって少なからず違いが見られるため、年度当初に共通理解を図る機会を望む教員の声があった。	3.7	学級・学年によって学習のルールにバラつきがあるとのこと指摘をいただいたので、年度当初に学校全体で確認し、統一感をもたせていく。
13	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	3.3	自分から進んであいさつができる児童が多いが、子供同士の言葉づかいは気になることから、繰り返し指導していきたい。	3.7	「元気なあいさつをしてくれる子が多い。」とのご意見を多数いただいた。ただし、子供同士の言葉づかいを心配する声もあったため、根気強く指導を継続していく。
14	児童生徒は、学習のルールや生活の決まり・時間を守ることができる。	3.2	生活のきまりの中でも、「廊下歩行」に課題があり、継続して指導している。「2分前着席」については、低学年児童も意識できるようになってきた。	3.5	児童が学習のルールや生活の決まり・時間を守ることは、おおむね達成していると捉えていただいている。「できた」瞬間を見逃さず肯定的な声掛けをしたい。
15	児童生徒はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って、学校生活を送っている。	3.5	他者のことを考えて行動ができる児童が多い。友達間でトラブルがあった際は、両者の話をしっかり聞き対応するよう努めた。道徳教育を通して、道徳的な心情を育て、判断力・実践意欲を高めている。	3.7	全教育活動をととして、児童の道徳性を高め、他者への思いやりを育むとともに、いじめの未然防止、早期発見に向けた組織的な体制を強化する。
16	教職員は自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	3.6	教師自身が規範意識を高く持ち、児童の手本となる行動を取ることが大切であると共通理解している。本校では、清掃指導で手本となる教職員が多い。	3.7	信頼関係を基盤に、教員がルールに従う姿を見せるだけでなく、その振る舞いを通じて「なぜこの決まりが大切なのか」を体現していく。
17	児童生徒は、体力向上に向け、体育の授業や部活動または外遊びに意欲的に取り組んでいる。	3.7	体育主任を中心に、体力向上のため様々な学習活動を計画し取り組んでいる。また、休み時間になると元気に外遊びをする児童が多い。	3.9	児童が校庭で元気に体を動かしたり、遊んだりしている様子が見られるとのこと意見を多数いただいた。持久走大会前には多くの児童が朝マラソンに取り組んでいた。
18	学校は、児童生徒の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	3.6	養護教諭や栄養教諭による指導を効果的に取り入れ、児童の健康や食に対する意識を高めている。また、「保健だより」で本校児童の発育や課題、健康管理に関するアドバイスを掲載する等、啓発に努めている。	3.9	元気カードに取り組むことで、子供が食事バランスを意識するようになったとのこと意見があった。今後も家庭と連携を図りながら、児童の健やかな成長を促したい。
19	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切に、児童生徒に寄り添った対応をしている。	3.8	児童一人一人の思いを大切に、その実現を後押しする指導をしている。悩みや不安を相談し易いように、普段から児童との良好な関係性の構築に努めている。	3.7	一人一人に寄り添う教育相談やアンケートを徹底し、小さな兆候を早期に察知していく。また、心の居場所となる集団づくり、家庭・関係機関との迅速な連携を図る。
20	学校は、いじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	3.7	学級でいじめやトラブルがあった場合、管理職への報告・連絡・相談を徹底しているため、早期発見・早期対応につながっている。不登校に対しても、学校全体で組織的に対応している。	3.7	子供の思いを傾聴するとともに、「いじめは絶対に許さない」という毅然とした姿勢を、言葉だけでなく、教員の日常の振る舞いで示し続けていく。

